

第14講 AD-AS分析(2)

AD曲線

- (1) 財市場, 貨幣市場を同時に均衡させる国民所得 Y と物価水準 P の組合せ (Y, P) の軌跡
 (2) 右下がり
 (3) 政府支出 G , 貨幣供給 M を増やすと右にシフトする.

$$\text{AD 曲線 } (Y, P) \begin{cases} \text{IS} & Y = C(Y) + I(r) + G \\ \text{LM} & \frac{M}{P} = L_1(Y) + L_2(r) \end{cases}$$

AS曲線

- (1) 労働市場を均衡させる国民所得 Y と物価水準 P の組合せ (Y, P) の軌跡
 (2) 右上がり

$$\text{AS 曲線 } (Y, P) \begin{cases} \text{生産関数} & Y = F(\bar{K}, L) \\ \text{労働市場} & \frac{\partial F}{\partial L} = \frac{W_F}{P} \end{cases}$$

AD 曲線と AS 曲線は1点で交わる. 交点 E では, 財市場, 貨幣市場, 労働市場の3つの市場が同時に均衡している.

1. デマンド・プル・インフレ (Demand-pull inflation)

例えば政府支出 G を増やすと, 財市場の需要サイドが刺激される. AD 曲線が右にシフトし, 均衡物価水準 P^* が上昇する. 需要拡大にともなう物価上昇をデマンド・プル・インフレという.

物価は上昇するが, 均衡国民所得 Y^* も増加する. 雇用が増え, 失業率が下がるので, 良性のインフレである.

2. コスト・プッシュ・インフレ (Cost-push inflation)

(1) 物価水準一定のもとで ($P = \bar{P}$), 名目賃金率 W_F が上昇したとする. 労働供給曲線 $L^s(W)$ が上方にシフトする. 労働需要曲線 $L^d(W)$ は不変. 労働市場で雇用が減少する. 生産関数に沿って国民所得 Y が減少する. これはすべての \bar{P} について成り立つ. AS 曲線が左にシフトする. $AD - AS$ の均衡では, 国民所得が減り, 物価水準が上昇する.

(2) 物価水準一定のもとで ($P = \bar{P}$), 原油や小麦など労働以外の生産要素の価格が上昇したとする. 価格の上昇により投入が減る (モデルでは \bar{K} が減少することに対応する). 投入要素と労働が補完的であるとすると, 労働需要が減る. つまり, 労働需要曲線 $L^d(W)$ が左にシフトする. 労働供給曲線 $L^s(W)$ は不変. 労働市場で雇用が減少する. 生産関数に沿って国民所得 Y が減少する. これはすべての \bar{P} について成り立つ. AS 曲線が左にシフトする. $AD - AS$ の均衡では, 国民所得が減り, 物価水準が上昇する.

(1), (2) はいずれも生産要素の価格が上昇したケース. 生産費用が増えると物価が上昇する. コスト・プッシュ・インフレという. 均衡国民所得 Y^* が減るので, 雇用が減り, 失業率が上昇する. 悪性のインフレである.

過去の講義レジメは下記サイトの「Courses 2008」にあります.

<http://www1.doshisha.ac.jp/~kmiyazaw/>